

平成 30 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語・日本文化専攻 助教
氏名 Name	永原順子
専門分野 Academic Field	日本文化学・宗教民俗学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	<p>1) 水の怪異伝承について *平成 29 年度より継続</p> <p>2) 人工知能の身体観に関わる諸問題</p>
<p>1) 水の怪異伝承について *平成 29 年度より継続</p> <p>国内外の水に関する怪異伝承を調査し、各地の人々の水に関する異界観の特徴について明らかにした。インドネシア（平成 30 年 10 月）、タイ（平成 31 年 3 月）での調査の際、同国内の各地域において水に関する怪異伝承についてのアンケートおよび聞き取り調査を行い、水難防止教育への影響の有無について分析を行った。成果の中間報告として、「比国水難と怪異伝承との関わり」（『季刊ういてまで』13 巻第 2 号、平成 30 年 5 月 25 日刊行）をまとめた。さらに、タイ国日本研究国際シンポジウム 2018 : the International Symposium on Japanese Studies 2018 (8 月 25 日、Chulalongkorn University, Thailand) において、研究発表「怪異伝承と水難防止教育との関わりについて」を行った。</p> <p>2) 人工知能の身体観に関わる諸問題</p> <p>実体を伴わざる未知の存在を示す空間、伝統芸能が描く世界、これら“既存”の異界と人間との関わりとを論ずる視点は、人工知能と人間との関わり of 解明に何を寄与できるのかを、身体観を中心に検討した。人工知能と倫理・社会に関する研究会「AI と信頼」（6 月 9 日、国際高等研究所）において、「芸能の身体～方便としての“信頼”～」を発表した。また、日本宗教学会第 77 回学術大会（9 月 9 日、大谷大学）では、「パネル 技術社会と宗教—人工知能の実装化が持つ宗教的意義について—」において、「機械は魂を持ち得るか—からくり人形に見る擬人化のかたち—」AI の身体観に関する議論を行った。</p> <p>そのほか、祭礼研究の成果報告として、「芝居絵がもたらしたもの—高知県香南市赤岡町の「絵金」を例に—」（「日本研究論集」第 17 号、平成 30 年 4 月刊行）をまとめ、日本語教育の成果報告として、International Simulation and Gaming Association (ISAGA) 49th Conference (7 月 10 日、Mahidol University, Thailand) において、「Bibliobattle Game: A Reading Competition Game」を発表した。</p>	